



清風

南砺市立上平小学校
学校だより
令和3年12月
上平小学校ホームページ
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

今を顧みて未来へつなぐ

教頭 安田 陽子

先日、ようやくユネスコスクールの本申請を文部科学省に提出することができました。ユネスコスクールは、持続可能な社会を目指す SDGs の考え方を進めていくことができる人材を育てることをねらいとしています。

今年はPTA活動でも SDGs 未来都市を意識した取り組みがされています。総務委員会主催で「川から海へ」と題した講演から、庄川と富山湾が深くつながっていることを学びました。まさに SDGs の 14 番目の目標に関わります。2月には、家庭教育委員会が子どもの権利条約をカルタにして学べる会をもってくださる予定です。未来都市に住む市民として、未来を生きる子供たちが多様なものの考え方を身に付け、人・もの・ことと豊かにつながって生きていけるように学校でも様々な活動に取り組んでおります。

このユネスコスクールの活動の一つとして、5年生が参加する「アジアがんフォーラム」を紹介します。先日、島田陽子先生（お話ポケット 庄川町在住）にお越しいただき、五箇山の方言を使った紙芝居「がんってどんなもんがけ？」を聞かせていただきました。その紙芝居から、子供たちはがんの原因がたばこや酒、生活習慣によるものが大きいことや、予防や治療のためには早期発見、早期治療が大切であることを学びました。子供たちの中には、がんになるのは自己責任ではないのか。と言う考えをもつ人が何人もいました。しかし、国立がんセンターの加瀬郁子先生から次のような話をいただき、子供たちの考えに変化が見え始めました。それは、「昔はたばこへの間違った価値観から吸ってしまい、がんになってしまいう人もいた。今は、科学が進歩して、たばこを1本でも吸うと遺伝子的にやめられなくなる人がいることが分かった。でも、頑張ってもやめられない人がいたとき、がんになったのは自己責任だとその人の悪いところ探しをしてしまう人が増えているように感じる。これからは、困っている人をみんなで支えていける世の中にしていきたい。」という言葉でした。それによって、子供たちの中から「相手には何かしらの理由があるかもしれないのに、私たちはその人の悪いところを探し、決めつけてしまうことがある。だから、気を付けて言葉をかけ、優しく支えていきたい。」という感想が聞かれました。

その場にいた大人も考えさせられました。この活動は今後も続きます。来年も、地域の中で学び、課題に協力して立ち向かえる子供を教職員一同育てて参ります。



意識化して視力を守る

保健主事 中井 正子

先日、学校保健委員会が開かれました。本校の健康診断の結果をみると、低視力者の割合が昨年と比べて少し増え、学年が上がるごとに低視力者の割合が増えてきています。視力低下を防ぐための働きかけとして、これまで、養護教諭による「目の健康に関する学級活動」や保健便りによる啓蒙、保健・運動委員会の「正しい姿勢で目を大切にしよう」、「外で遊ぶ大作戦」の活動に取り組んできました。とやまゲンキッズ作戦によると、1学期よりも目を休めるように気を付けている児童の割合が、大幅に増えてきています。

今回の学校保健委員会では、高学年児童も参加して、学校医（眼科）の川口泉先生に「近視の進行予防～最近の近視治療法について～」の講演を聴きました。近視の多くは、眼軸が伸びていることによる「軸性近視」で、近視を防ぐためには、『本を読むときや、画面を見るとき姿勢を正しくする』『デジタル画面を30分間見たら、20秒間遠くを見る』『できるだけ、屋外に出る』が大切だということでした。

児童にとって、小さな頃から画面を見る機会が増えてきています。一人一人が自分で目を守る意識を持つこと、また、周囲の大人が子供に意識づけをすることが重要になってきます。一人1台のタブレットも導入され、使うことが増えます。学校でも引き続き、指導していきます。